

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500172		
法人名	有限会社 ドリーム・アンド・ライフ		
事業所名	グループホームもやい志和		
所在地	東広島市志和町冠584番地 (電話) 082-433-3899		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_023_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472502719-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=023">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_023_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472502719-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=023</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>隣接しているいきいきデイとレクリエーション、行事等を一緒に行なうことで、少人数で過ごすことを基本にしながらも、時には大勢で過ごす時間も設け、メリハリを持った生活を送って頂く様支援している。環境については木材をたくさん使った建物にして、暖かく、ゆったりした雰囲気を楽しんでいる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成24年4月開設のグループホームである。事業所の周囲はのどかな田園地帯が広がる地域であり、高速道路のインターチェンジが近くに立地し交通の便が良い。母体法人の開設者はリハビリ専門職で地元との縁が深く、認知症対応型デイサービスや小規模多機能型居宅介護等を併設し地域の福祉を担うとともに、「もやい祭り」等の地域交流イベントや、日常的な近隣との交流によって、付近のにぎわい作りの一端を担っている。建物は天然木をふんだんに使い暖かみを感じられ、ガラスを多く取り入れ開放的で風通しも良いだけでなく、ウッドデッキの中庭や広い畑など、広々とした空間になっている。</p> <p>事業所の職員は個人別目標を立てて教育訓練され、外部の研修にも積極的に参加し、日々介護のレベルアップに取り組んでいる事業所である。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフコーナーに貼り、職員に周知できるようにしている。	ひとり一人の人格の尊重や職員のやさしさ、利用者の声に耳を傾けることを重視した経営理念を、スタッフコーナーに貼り、日頃の業務の中で気づきを指摘しあい、ミーティングやスタッフ会議で確認しあっている。経営理念に沿って、事業所として毎年事業計画を立てるほか、個人別でも目標を立て、日々レベルアップに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行事を通じて地域や家族との交流を図り、また、日常の買い物、や散歩なども近くのスーパーに出かけるなど、地域の一員であるという認識を持っていただけるようにしている。	毎年5月末に開催する「もやい祭り」には、利用者や家族をはじめ、近隣住民の方など約300人が参加し、地域の協力を得て神楽や太鼓が行われている。また、日頃から学生ボランティアの受け入れ、近所への散歩、スーパーへの買い物等での日常的な交流があるため、地域の住民とも顔見知りになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	陶芸などの作品を地域の文化祭に展示し、認知症に対する理解や支援の方法をパネル等を利用し知っていただいた。また今年は施設の文化祭として、作品や日々の様子等を紹介した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、運営推進会議を開き、利用者の家族や地域の声を聴き、行事や運営に反映できるように取り組んでいる。	隣接する事業所と共同で行う運営推進会議には、事業所報告のほか問題点の報告等も行われ、会議の参加者からアドバイスや改善方法を得ており、事業所のサービス向上に活かしている。	会議録の様式を、わかりやすく見直した上で家族に送付することで、結果として会議に参加していない家族に対しても、施設の取り組みに対する理解が深まり、より多くの意見を求めることができることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で、市の担当者と情報交換をし、連携することで疑問や問題点を提起し、協力をして頂ける関係を築いている。	地域包括支援センターと連携して、認知症サポーター養成講座の講師の受託など、市の事業に関わることで、協力関係の構築に取り組んでいる。また、日頃から事業所運営に関し、不明な点は市の介護保険担当者に問い合わせることで、日頃から情報交換を密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的には身体拘束をしない方針だが、2人の利用者に対し、車椅子からの転落が大きい為、やむを得ない事情として捉え、ご家族には説明し、了解を得ている。しかし、職員の見守りがしっかりできる時は、ソファや椅子に座り替え、拘束時間の軽減に努めている。</p>	<p>玄関のカギは日中かけていないなど、日頃から、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者の状況により、やむを得ず安全ベルト等を使用する場合、家族から文書による同意を得、定期的に見直しを行うことにより、拘束をなるべく早く止めることができるような工夫に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年間職員研修計画の中で、虐待防止についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年間職員研修計画の中で、権利擁護についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前には、重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や不安に思っていることを説明の中で明らかにし、理解や納得をして頂けるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望を気軽に聞き出せるようにしており、出来る限りそれに対応できるように努力している。</p>	<p>利用者本人が食べたいもの、外に出たいなどの要望をかなえているほか、家族来訪時に管理者が声かけ、面談などを通じ意見や要望を聞き、メール等も活用して家族との気軽な情報交換ができる工夫がなされている。その結果、オムツの枚数の軽減に取り組むなど、事業所の運営にも反映がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回の全体会議などで、お互いの意見を提案していき、反映できるように検討・実施等を行っている。</p>	<p>事業所職員は常勤職員が多く（非常勤は1名）、事業所運営に対し積極的な意見が出ている。業務マニュアルの改善や行事の提案、シフトの改善など様々な意見が活発に出ており、管理者が調整を行い、改善、実施できるように取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回、目標管理シートを基に、代表者は各職員と面談し、要望や不安などを聞きだし、助言するとともに、各管理者にフィードバックし、職場環境整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間職員研修や外部研修により知識、技術の向上を図り、また、無資格者には働きながら資格が取れるよう、勤務状況も配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修やグループホーム協会の会議等に参加し、お互いの事業所の情報交換やネットワーク構築に努めている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>アセスメントシートで本人、家族の要望、不安を聞きだし、安心して生活できるように支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>担当者会議で、家族から本人の利用に関して、不安や要望を伺い、できるだけそれらの不安を取り除き、よりよい関係を築くように努力している。また、普段から積極的に、要望や疑問などがないかどうか伺うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントや担当者会議でニーズを見極め、ケアプランに反映して、よりよいサービスを展開できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>1人1人のできることや、やりたいことを見定め、食事の準備や後片付けなどを行うことにより、一緒に生活しているという意識を持っていただけるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>可能な限り面会にきていただき、一緒の時間を過ごしたり、行事などでは家族に参加頂き、共に本人を支えているという意識を持っていただいている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域の方が多く、買い物や散歩に出掛けることで、顔なじみや知り合いの人に会える機会を設けている。また外出が困難な家族様には、家に入居者をお連れし、ゆっくりと過ごして頂いている。</p>	<p>買物や散歩などにより、顔なじみや知り合いとの交流があるほか、元職場の方の来訪のための支援を行っている。利用者が住んでいた家で、家族と面談できる企画を行うなど、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者同士の共通した話題や趣味などを利用し、お互いの関係作りに励み、自然とお互いが意識し、支えあっていけるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や老人保健施設入所などで一時的に契約を終了されても、関係を維持することで再び入居に繋がる事もあるので、相談や経過フォローに等に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の思いや希望をくみ取るように、関わる時間を多く持っている。収集した情報は、申し送りノートにてタイムリーに伝わるようにしている。20で記載したように、個々の希望を叶えるために、しっかり関わりを持ち、思いをくみ取るようにしている。	利用者が食べたい食事や、家に帰りたなどの要望は、申し送りノートに記載し、できる限り実現できるように検討がなされている。その結果、外出先の選定や、お盆に家に帰れるような企画を作成するなど、本人本位に様々な検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやケアプラン、家族の面会時などを利用し、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居当初はアセスメントシートや家族より聞き、その後は日々の介護記録や職員からの申し送り等により、状況把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、アセスメント、ケアプランを基に作成し、本人、家族に納得を頂いて署名、印鑑を頂いている。また対象者を決め、関わり方を再検討し、改善案等出し合い、皆で実施している。</p>	<p>詳細なアセスメントの実施とケアプランの作成、利用者や家族への説明により、理解を得ている。また、日頃から業務日誌を把握して、介護計画の再検討がなされ、改善案を皆で出し合い、現状に即した介護計画への見直しがなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテに日々の生活を記録し、特記事項等あれば記録し、その中から介護計画、ケアプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族や本人のニーズをしっかりと伺い、それに合わせフォーマルなニーズのみならず、インフォーマルなサービスも組み合わせ、より柔軟なより良いサービスを提供できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーや公民館、神社等に出掛け、地域との交流の中で、ご本人が暮らしを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、ご本人やご家族の意向を伺いながら、適切な診察を行ない、定期受診にて、利用者の健康管理を行っている。</p>	<p>近所の協力医に受診へ連れて行っているほか、通院困難な利用者には往診や訪問看護も依頼している。また、専門医や大きな病院にかかる場合には、家族とともに病状を聞き、移動も職員対応で行うなど、適切な医療が受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員一人ひとりが情報を共有し、定期受診の際には情報や気づきを伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の地域連携室と密に連絡を取ったり、お見舞いに行き、状態把握に努め、退院時に希薄な関係にならない様に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用者の状況によって、家族・職員・医療関係との連携を図り、今後の方針を決めている。また今年度、かかりつけ医の三木先生に「看取りの研修」を行って頂き、看取りについての支援の在り方について学んだ。	利用者の状況に応じて医療との連携を図り、対応方針について検討がなされている。H24年4月開設から、3人の利用者の看取りを行っている。病院で施しようがないのでと告げられた利用者も、施設で協力医、家族とともにチームで支援に取り組み、お話が出来るまでの状態になり、家族看取られ、穏やかな最期を迎えられた。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対応についての職員研修を行い、実践力を身に付ける様に努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回、消防署と連携し、夜間を想定した訓練等も取り入れ、行っている。隣にある消防団とも契約を交わし、災害時には通報システムで自動的に連絡され、協力体制を築いている。	年2回、消防訓練を行い、消防からの指導も受けているほか、近隣の消防団とも協定を結び、火災などに見舞われた際には、互いに協力し合う体制を築くなど、近隣との協力も得ている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「一人ひとりの人格・尊厳を大切にす」と理念にもあるように、配慮に欠けるような言葉遣いや対応はしないよう、教育・指導している。	言葉遣いなど、配慮に欠ける言動があった場合には、職員同士で注意しあうようにしているほか、風呂やトイレなど一対一の介護を基本とし、利用者のプライバシーを保つような配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話や相談等の関わりの中で、本人の思いをくみ取り、ケアプランや日頃の暮らしの中で実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てが最優先と言うのは難しいが、一人ひとりの気持ちを大切に、出来るだけ一日一日が充実した日になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容院が来られ、散髪をお願いしている。また起床時には洗顔や整容に心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けも行っている。また行事の際の食事は何がいかリクエストに応え、一緒に作り、一緒に食べるなど、楽しい時間となるように心がけている。	職員と一緒に利用者も準備や片付けに参加しているほか、天気の良い日は外で食べることや、家族を呼んでの行事食の実施や、手作り食のイベントなど、利用者が食事を楽しむような取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量のチェックをし、摂取量の確認を行っている。また、個人の嗜好に合わせて、コーヒーや紅茶などを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の清潔維持と誤嚥性肺炎の予防の為、毎食後必ず口腔ケアを行ない、また自歯がある方は、協力医院の歯科で定期受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツを安易に使用せず、トイレ誘導し排尿・排泄を促している。同時に排泄記録表に記録することで排泄パターンを把握するよう努めている。</p>	<p>利用者とかかわりを持ち、排泄パターンを把握することで、排泄の自立に向けて取り組み、トイレへの声かけ等も工夫している。その結果、布パンツの利用やパットの活用により、オムツを使用する利用者はなく、パット使用量もなるべく減らす取り組みがなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>レクでの体操や、食事・水分を十分摂り、基本的な事をしっかり行い、便秘にならない様に心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最近は午前中の中の入浴で、週二回となっているが、本人の希望によっては入浴日以外に入浴したり、日にちを変更するなど、出来る範囲で希望に沿うようにしている。</p>	<p>基本的には週2回の中の入浴だが、利用者が希望すれば週何回でも入浴でき、入浴時間も希望があれば変更することができる。湯船につかる長さも、可能な限り利用者の希望に添うなど、気持ちよく入浴できるように対応がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし、夜間はしっかり眠って頂くよう努めている。また食後は横になり、休息を取って頂いたり、寝る前にホットミルクを飲んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方用紙をカルテに保管し、用法、用量について皆が把握できるように努めている。また、変更、追加があった場合は、口頭及び申し送りノート等にも記載し、職員への周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクや毎月の行事などに喜びや楽しみを持って頂けるように支援している。また、食事の準備や片づけなども、やりがいや生きがいを感じて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者と一緒に、近くのスーパーには度々出掛けている。遠方にも食事やドライブ、紅葉、花見等、様々な所に出掛けている。また20に記載したように、家族の自宅で過ごせるような支援もしている。	日頃から近隣への散歩やスーパーへの買い物、ドライブ、花見や食事など、日常的に外出ができるような支援がなされている。家族も交えた外出イベント等も企画し出かけている。配車も工夫し、車いすの利用者も全員で戸外に出られるような工夫もなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症軽度の方でご家族の了解の上、一人の方はご自分でお金を管理されている、その他の方は施設で管理させて頂くが、買い物の際は一緒に支払いをし、お金の流れを説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	施設の電話を使用し、いつでも連絡をとれるように支援している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	木の温もりを感じて頂けるような住居、家具を提供し、随所にソファや談話スペースを設置することで、くつろぎの空間を用意している。また、窓や天窓から自然光を取り入れ、明るく、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。一昨年8月から柴犬を飼い、皆様の癒しになっている。	共有空間には木をふんだんに使用し、ウッドデッキの中庭や広い畑、ソファや談話スペース、あえてフロア全体の見通しを悪くすることで、利用者が安心できるスペースの確保がされている。また、水槽には金魚、小鳥や柴犬など、利用者が癒される環境になっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	仲の良い利用者同士の席を隣同士にしたり、ソファを数か所に設置し、数人で座ったり、別の場所に一人で座ったり出来る様に、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	クローゼット、洗面台は備付だが、ベッド、タンス、テレビ等は使い慣れたものを持参して頂き、本人の好みや自宅の環境に近いものになるようにしている。	居室には洗面台が据え付けてあり、居室内の清潔を保つのに役立っているほか、居室の入り口に展示スペースがあり、自分の好きな物を置くことができる。居室内には自分の好きな物を持ち込むことができ、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	ケアの目標として、自立支援が実践できるように声掛け、介助を行なっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもやい志和

作成日 平成28年4月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、家族代表者以外には施設の取り組み等を知る機会がない。(玄関にいつでも閲覧できるように議事録のファイルを設置しているが、見ている家族は殆どおられない) また、議事録の様式の見直し。	事業報告や施設での取り組みを理解して頂く。	運営推進会議での議事録の様式を見やすいものに変更し、また、請求証書の家族送付時に同封する。	6月の運営推進会議より開始する。
2	4	運営推進会議は会議室で行われ、普段の施設の様子をあまり見て頂く機会がない。	運営推進会議の参加者に施設をよりよく知っていただく。	8月の運営推進会議では、入居者、職員、運営推進会議参加者と一緒に昼食を摂りながら、施設の雰囲気、食事の味付け等の感想、意見を頂く。	8月の運営推進会議にて実施する。
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。